

# 北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会  
東京支部会報 第19号  
2005年10月2日

## 北高同窓生の皆さん!! 同窓会活動に参加しよう!!

多治見北高等学校同窓会・東京支部 会長 愛知 紘治 (1回生)



多治見北高校同窓会東京支部会員の皆さんには益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は東京支部同窓会活動に暖かいご支援・ご協力を頂き感謝申し上げます。今年も暑い夏を迎えましたが、これに地震や関東直撃の台風が加わり、更に郵政民営化、国会解散、9月10日の衆議院議員選挙と、自然界、政界ともに慌しい夏となりました。新聞もTVニュースも連日、小泉改革、衆議院議員選挙の報道でフィーバー、日本列島が沸き立ちました。そして、そこに北高同窓生2名(共産党比例区の7回生加藤隆雄さんも入れたら3名)が立候補するという話が飛び込み、大変びっくりしたのは私だけではないと思います。22回生の阿知波吉信さんは民主党から、34回生和仁隆明さんは自由民主党から立候補。ともに今まで東京支部会員であり、忙しい中、支部総会や会報投稿などに協力していただきました。お2人には正々堂々と戦い、明るい日本の将来のために力一杯頑張ってほしいものと期待しています。

昨年来、北高同窓生による千葉県鴨川市の亀田総合病院の見学会を計画しておりましたが今年4月新病棟K-タワーの完成を待って、7月8、9日1泊2日の亀田総合病院見学・房総バス旅行を行いました。東京支部同窓生有志を中

心に、多治見、名古屋、瑞浪、長野、大阪からの同窓生の参加もあり、総勢28名の団体バス旅行となりました。多治見市からは多治見市民病院の管理課長(倉橋 誠氏)が市民病院の改革に役立てたいとオブザーバーとして参加されました。亀田総合病院はわが国を代表する最先端の総合病院で、今回見学した新、旧病棟はハード、ソフトともに素晴らしく、リゾートホテルで治療を受けている感じとの声が見学者から漏れていました。本病院で主任外科部長として活躍されている加納宣康先生にはいろいろご配慮を頂き成功裏に終了することが出来ました。新病棟13階レストランでの懇親会では加納先生を囲んでの語り、写真撮影など大変盛り上がり、同窓生の笑顔一杯の楽しく、思い出深い見学旅行となりました。詳しくは本会報に見学記を寄せていただきましたのでご参照下さい。これからも、各方面で活躍されている本校同窓生を応援し、また同窓生自らも元気づけられるような企画を立案し、同窓生の絆を深めて行ければと考えています。さて、本年も11月12日(土)に恒例の東京支部総会・フォーラム・懇親会を新宿モノリス29で開催します。今年の幹事は6回生、16回生、26回生です。母校から来賓として勝校長先生他恩師の先生方、本部同窓会より尾関会長、加藤誠治副会長、関西支部吉田会長を迎える予定です。今年も有意義で楽しい和気藹々の総会、懇親会になるよう多くの皆さんの参加を期待しています。

## 「北高時代到来」

多治見北高等学校同窓会会長 尾関 恵一 (2回生)

わが同窓会東京支部の皆様には、お変わりなくご活躍中の事と存じ、お慶び申し上げます。東京支部の素晴らしいご活躍に対しては、いつも敬意を持って拝見しております。

本部での現状については、本年7月末に発行になりました「北辰7号」で報告させていただきました。その後の進展としては、いよいよ本館新築工事の入札となりましたが、談合疑惑で入札が再延期となって工事着工が多少遅れそうです。いずれにしても本年度中には、新築工事が始まり、来年度には完成しますので、この時期に正門の建築を50周年事業の一環として、これを取り行うことに決定しました。

本体の50周年記念事業の決定がなされず、正門の建築を先行させることには、ご批判もあろうかと存じますが、日

程の上で仕方のない事だと思っています。日程的には、本館新築工事が来年度に完成しても、旧校舎の解体がなされるのは2年後でありますので、50周年記念事業はこの旧校舎跡に「生徒達が自然の中で親しみあえるような環境整備」を記念事業として行ないたいと考えています。従って、正門の建築と本体の50周年記念事業が時期的に少しのずれが生じることは、仕方のないことだご理解をいただきたいと存じます。いずれにしてもこの記念事業には、多額の資金が必要であります。その節





にはよろしくご協力をお願いします。

わが同窓会の重要な課題として財務体制の強化があります。今年は1口3000円の活動協力金をお願いすることにしました。今までは、金額を定めずをお願いしておりましたが、「いくら振り込んだらいいか」など問い合わせが多かったことなどを考慮して、このような事に決定させていただきました。よろしくご協力をお願いします。

この原稿を東京支部に送ろうとしていると、国会が解散となりました。地元の岐阜5区から22回生の阿知波吉信君(土岐市駄知町出身)が民主党から立候補することになり、ご挨拶をいただきました。また、その後更にサプライズなニュースが飛び込んで来ました。いわゆる「小泉の刺客」として、33回生の和仁隆明君が自民党公認候補として立候補するというニュースでありました。この記事が皆様の目にとまる頃には結果が出ている訳ですが、どんな結果になるか楽しみなことです。

いずれにしても、わが北高出身者が各方面にて大活躍されている様子を拝見するにつけ、いよいよ北高時代の到来を思わせます。皆様も益々のご活躍をお祈り致します。

## 軸の発見

岐阜県立多治見北高等学校 校長 勝安喜

本校には30代から40代にかけて14年間、数学の教員として在職していました。北高スピリットに再び出会えることをうれしく思っています。

数年前、高村光太郎の新境地を開くきっかけとなった彫刻「栄螺(さざえ)」が70年の時を経て発見され展覧されました。私も美術館で見させてもらいました。

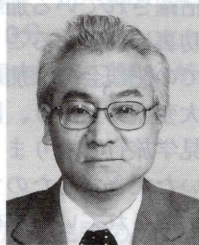
「何度彫ってもうまくいかない。最後に気づいたのが“軸”の存在だった。貝に軸があって軸を中心に針が一つ一つ増えていく。それを見なければ栄螺にならない。軸を見つけた日から全ての作品に魂が入りだした。」

彼がこの哲学にたどりついたのは、多くの試行錯誤と生きた栄螺を彫り込みたいという情熱があったからだと思います。彫刻にとどまらず人間も“自分の軸”を見いだした時、人生の歩み、設計ができるのではないのでしょうか。

高校時代に強く、個性的な軸をぜひ培って欲しいと思います。学力をつけることは進路を決定するときの必須条件です。心身共に元気な今、渾身の努力をしてもらいたいと思います。しかし、学力だけではビルのようなもので地震に弱い。富士山のように裾野を拡げながら高みをめざして欲しいと思います。人と語り、本を読むことによって生きるヒントや力を得るはず。豊かなこの財産を得ると、考えにゆとりと柔軟さがつきます。優秀な北高生が人間のにも富士山のように、悠揚迫らぬ人間形成をしてくれるよう応援したいと思います。

あるときはナビゲーター、あるときは共に歩く人、あるときは見つめ支援する人、おとなの英知ある存在が求められている今日、北高に学んで良かった、甲斐があったといわれるよう北高を前進させて参りたいと思います。

以上のような思いをもって着任いたしました。元氣な次世代を育成していくには教職員の誠心努力はもちろん、



同窓会の皆様の支援が欠かせません。同窓会には日頃から熱意を賜り心より感謝いたしております。校舎改築の際は大変な力添えをいただきましたが、今年度ようやく着工の運びとなりました。新校舎完成の折には、校舎周辺の整備も必要となります。その時には同窓会に多大なご支援をお願いしなければならないことも出てくると思います。今後一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

## 囲碁と私

岐阜県立多治見北高等学校 3年生 神戸裕介

私が初めて囲碁と出会ったのは、幼稚園の時だった。もともと囲碁が好きだった父が教えてくれたのだ。といっても、囲碁のルールは幼稚園の子どもがすぐに理解できるほど簡単ではなく、それを習得するのに長い時間がかかった。小学4年生の春頃から本格的に囲碁をやろうと決心し、碁会所に通い、大人に混じっての実戦的対決を通して着実に力をつけた。岐阜県予選を初めて戦ったのは小学6年生の時に、一番驚いたのは私自身だったが、なんと優勝してしまった。それ以来、毎年県優勝を続け、4回の全国大会出場経験を持って多治見北高校に入学した。

入学してすぐに囲碁部に入り、自宅での自主強化という形式ではあったが、学習の合間にネット碁を主にして練習に取り組んだ。まもなく岐阜県予選があると知らされ、想像がつかない高校のレベルの高さを不安に思いながらも、日々の練習に励んだ。当日、とても緊張したが、1年生ということでプレッシャーもなく、挑戦者の気持ちで伸び伸び打てた。その結果、決勝まで進んだが、最後の最後で惜しくも敗れ、準優勝だった。優勝できなかったという意味ではレベルの高さを感じた一方、正直なところ1年生が出場してすぐに準優勝できるという、全体的なレベルの低さを感じない訳にはいかなかった。

しかし、驕れる者は久しからず、の通り、2年生では予選落ちした。悔しかった。情けなかった。1年生の時とは違ってプレッシャーがあったが、主な原因はやはり天狗になっていたことだろう。悔しさをバネに、また練習を重ね、3年生の県予選に挑んだ最後の試合。強豪が揃っていて無理かと思った。しかし、勝利の女神は苦渋を味わっても決してあきらめなかった私に微笑んだのだ。念願の初勝利をつかみ取った。嬉しくてしょうがなかった。

高校3年間で得たのは、技術はもちろん精神的成長が大きかった。囲碁だけにとどめておくには惜しいことを多く学んだ。この経験は、将来の囲碁と共にある人生の原点となるとても重要な要素だ。とても満足している。最後に、今年の夏に開かれる全国大会でベスト16に入って3年間の集大成にできれば最高だ。頑張りたい。

## 北高に入学しての決意

岐阜県立多治見北高等学校 1年生 測上大河

私の将来の目標は医師になることだ。そのために医学部への進学を目指している。医学部への進学はとても狭き門であるため、私は高校生活の3年間、常に勉学に励んでいきたいと考えている。

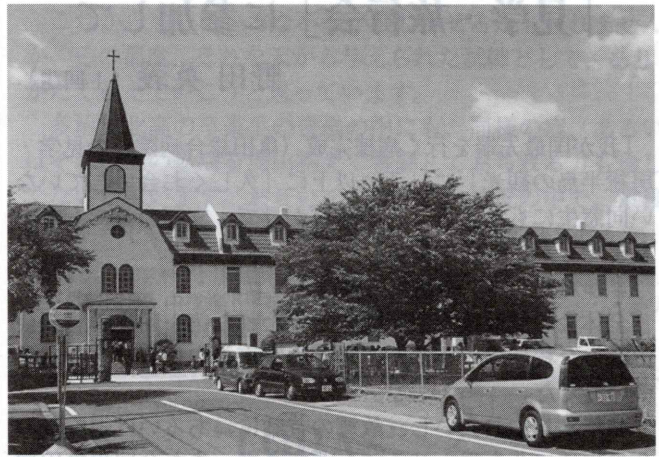


私は中学校生活の3年間、塾や家庭教師に頼らず、学校での勉強と自分の力だけで学習をしてきた。その中で自分の勉強スタイルを確立することができた。この面で多治見北高校の校訓である「自主・自律・自学」の基本姿勢はできていると思う。だから65分の授業にも集中して積極的に受けていきたい。

勉強だけでなく部活動や行事に積極的に参加していきたい。部活動では、中学校でも頑張ったバスケットボール部に所属している。部活動からは、先輩や後輩との人間関係や、同じ目標に向かって努力し、協力し合うことの素晴らしさを学びたい。自分一人ではわからない考え方などを、様々な人と付き合うことによって学び、新たな観点を得たり、視野を広げたりしていきたいと思っている。

最後に私は「一期一会」という言葉がとても好きである。多治見北高校での生活で、多くの仲間や先生方と出会ったし、これからもそうだと思う。その出会いはいわゆる運命だと私は考えている。だから、一つ一つの出会いを大切にしていきたい。そして、「多治見北高校での3年間はとても素晴らしいものだった」と将来思えるように、自己実現に向けて充実した高校生活を送りたい。

以上が、私が入学時に決意したことである。今では高校生活にもだいぶ慣れてきた。しかし、やはり勉強と部活動の両立というのは難しく、勉強を怠りがちになってしまいつつある。自分の目標を達成するためには今のままではいけないと強く思っている。だから、自分の中にある心の弱さに打ち勝ち、常に前進していきたい。そして、立派な人間へと成長していきたい。



## 持続可能な地域社会づくり

多治見市長 西寺 雅也 (2回生)

多治見市は今「持続可能な地域社会づくり」を最重要課題として取り組んでいます。これから迎える人口減少時代にも地域が活力を失わず、市民がいきいきと生活するために何をすべきかがテーマです。人口減少は当然のことながら、人口構成の偏りから生じます。特に多治見市の住宅団地の開発が80年代に集中したため、「団塊の世代」が極めて多い人口構成になっています。最大の団地では1200人にも達するマンモス小学校がわずか10年で半減し、この春の新一年生がたった一クラスになるのではと心配されたほどです。

この「団塊の世代」が一斉にリタイアする時期が迫り、いわゆる2007年問題が地域社会を変えようとしています。一方、多治見市内はいわば土地利用の点で飽和状態に達し

ていること、地価の暴落により急速に名古屋都市圏が収縮していることから、駅周辺のマンション開発という例外を除けば開発圧力は著しく低下しています。人口は横ばい状態にあり、市税収入も減少傾向にあり、国・県の財政危機とあまって今後財政も縮小方向に向うことが予想されています。

東京に住んでいるときと理解しにくいと思いますが、こうした状況は多治見市だけではなく、日本のほとんどの地域で起こっています。豊かといわれる自治体でも財政状況をみると早晚危機的な事態に陥ることが分かります。若者を集めることのできる地域も日本全体からみればごく一部に限られています。

こうした中で、昨年市では自治体のダウンサイジングとすべき「総合計画」を作りました。市の行っている事務事業の一つひとつ存続か廃止かを検討し、すべての事業に優先度を付ける作業を続けています。財政縮小に見合う事業量に縮減するためです。

こうした厳しさの中でも「市民活動」はとても活発化しています。まちづくりへの取り組みは市内の各地区でそれぞれの独自性を持って進められています。市之倉では産業観



平成16年度、高田町1丁目の調整池に共栄地区住民と協働でつくられたビオトープ「共栄ビオトープ いのちの水辺」



光の取組みに加え、地域の人たちの手で里山整備が進められています。池田では休耕田をビオトープに変える作



業を地域で行い、地域を見直す「みちくさマップ」づくりに取り組んでいます。高田小名田地区では地域の資源再発見を産業観光につなぐ努力が続けられています。住宅団地で地域通貨を使った支えあいの仕組みが出来上りつつあ

り、地域の公民館ではサポーターによる自主的な運営が進められるといった動きがあります。これらはこれからの地域を支える活動へと発展する兆しだと思っています。

## 亀田総合病院の見学と房総半島の観光

### 「見学・旅行会」に参加して

野田 英義 (1回生)

「我が国最先端に行く病棟完成(亀田総合病院)の見学・房総半島の観光」に、それ以上に「久しくお会いしていない同窓生にも会える」との呼びかけで、支部会員でもない私までもがこの会に参加した。

#ゆたかなる 多治見の郷は・・#

全体会の解散後東京駅構内で行われた第1回生の懇親会で歌った校歌の一小節が、帰路の電車の中でもひとり口をついてた。

45年ぶりにお会いし、故郷の昔話に、あるいは退職後の今の生活に花を咲かせることができた。また今回の亀田総合病院の見学で驚きばかりが先行していた私ではあったが、「あすの医療」に考えさせられた。

このとき「過去は現在をもととして生まれ、未来は現在から生まれる」ことの意味を噛み締めた。

入口に入った途端、病院ではなくホテルにきたという感じだった。13階のラウンジルームに案内されたときには眼下に太平洋が広がっていた。一般病室はバス・トイレ付きの個室で、パソコン、家族用待合室、キッチンが完備されており、どの部屋からも海が見えるように配置されていて、ホテルの一室のようだった。

これまでの病院の大部屋にはそれなりに良さ一例えば、患者同士の声掛け・世間話などができ、癒されることもあると思うが、現在は入院して一日を過ごす空間に求められていることはプライバシーを守れること、各々の生活スタイルを築きやすくすることなんだと感じた。また医療サービスの大きな一つとして、「一カ所で、複雑な手続きなどなしに行える仕組みに整っているし、患者の情報は『生涯一人・一カルテ』で一貫した形で管理されている」と聞き、ホテルのようであってホテルでない、これが最先端に行く病院なんだと思った。

「社会勉強を兼ねた楽しい旅行」のひとつを過ごさせていただきましたことに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



北高同窓生・亀田総合病院見学・懇親会

亀田総合病院K-タワー13階

2005/07/08 18:14:04

### 北高同窓会ならではの有意義で楽しいツアー

斉藤 明 (3回生)

7月8日～9日、多治見北高同窓会東京支部メンバーを中心に総勢28名が参加し、亀田総合病院見学&南房総観光バス旅行会が開催されました。今回の旅行の主眼は、8回生の加納宣康さんが主任外科部長として勤務されている亀田総合病院の完成したばかりのK-TOWERを見学することになりました。亀田総合病院の素晴らしさは常々噂に聞いており、機会があればぜひ行ってみたいと思っていましたので今回の企画は本当に渡りに船でした。

東京駅八重洲口近くからスタートしたバスは首都高速から羽田を経由して川崎市の浮島からアクアラインへ。途中、海ほたるで小休止を取り、予定通り15時に亀田総合病院に到着。カスタマー・リレーション部のスタッフに迎えられてK-TOWER最上階(13階)のコンベンションホールに案内



内され、亀田院長や加納Dr.の挨拶を受けた後、2グループに分かれ約90分程の時間を掛けてガイド付きで館内を見学させていただきました。実際に院内を回り、説明を聞いてみると、K-TOWERの設計思想、配置、設備、機能、サービス施設等々ハード面、ソフト面ともに私の予想をはるかに超える素晴らしいもので、従来の病院の概念をガラリと変えてくれるものでした。「医療は誰のためのものか、そしてどうあるべきか」という医療の最も基本的かつ本質的な問題に対し、明確な答え(目標)を持って全力でその実現努力を続けている経営陣並びにスタッフの方々に深い感銘を受けました。サービス業ではCS(Customer Satisfaction)という言葉がよく使われますが、患者さんをゲストとして温かく迎え、患者さんの体と心、そして家族の気持を最優先で考える姿はCSに通じるものを感じます。まさにホスピタリティーにあふれるホスピタルであり、患者さんが選ぶ日本一の病院であるというのでも理解できます。私も、もしお世話になるならこういう病院がいいなあと思いました。

見学が終わった後は再びコンベンションホールに戻り、懇親会が開かれました。その夜は亀田総合病院の研修センターに泊まりましたが、部屋での二次会が賑やかに遅くまで続きました。翌朝は3名の方が仕事の都合などで電車で直帰されましたが、25名は鴨川シーワールド、鋸山ロープウェーを巡って16時少し前に東京駅前に着。本当に有意義で楽しい2日間でした。



## 病との共存を計る 心筋梗塞と脳腫瘍と共に

加納宣康（8回生）

1949年8月生まれの私は、今年の誕生日が来ると56歳になります。多治見北高8期生の私がこの年ですから、「歴史が浅い高校」と言われていた多治見北高の卒業生たちもそれなりの年齢になってきましたね。それに伴い、生活習慣病（成人病）や癌にかかる人、既に経験した人も急速に増えていることと思います。日本人の3大死因である癌、心筋梗塞、脳梗塞で既にお亡くなりになった方もおられると思います。

人間、これらの病から全く自由でいられるのは難しいことです。これからはこれらの病と共存しつつ生きていかなければならぬと覚悟すべきでしょうね。

実は5月23日は、私にとって一つの記念日です。一昨年（2003年）のこの日に心筋梗塞で倒れたからです。あれから早、2年。まだまだ元に戻ったとは言えませんが、なんとか仕事は以前とほぼ同様にいたしております。皆様にご心配をおかけし、また多くのお力をいただいたことに感謝申し上げます。

出張先の幕張で心筋梗塞を発症して倒れ千葉県救急医療センターへ搬送されました。同院での緊急の冠動脈血栓溶解吸引療法およびその後の同院および亀田メディカルセンターでの集中治療で軽快し、発症後2週間で退院して、その2週間後には仕事に復帰いたしました。正直に申しますと、かなり強がって無理をしていました。発症後2か月経った頃に、かなり安定してきたと、初めて感じました。

しかしその年の8月末のインドへの出張中に、激しいめまいで倒れ、そのままチェンナイ（旧マドラス）の病院へ入院となり、帰国後の検査で数年来の脳腫瘍であったことが判明して、また愕然と致しました。安全に手術を行うには腫瘍が大きくなりすぎているという指摘から、結局は放射線治療を選択いたしました。

その後、不整脈とめまいと難聴の進行に怯えながらの毎日でしたが、仕事は強気に続けてきました。なんとかここまで無事に來ることができ、ホッといたしております。

今後、脳腫瘍で突然命を失うことはないと思いますが、心筋梗塞の発作はやはり脅威です。今でもときどき不整脈がでると不安を感じます。先日（5月28日）、所用で岐阜へ行った際、夜間に激しい不整脈が起これ、心筋梗塞の再発作かと心配したことがありました。しかしこれはほんとうの硬塞ではなくて、一晩だけの不整脈の頻発で終わりました。

薬も血液が固まるのを防ぐためのバイアスピリン、ワーファリン、心臓の過度の働きを抑えるためのアーチスト、血管拡張剤のアイトロール、ビタミンB12製剤のメチコパール、利胆剤のウルソ、などいろいろなものを使っています。右耳の難聴はその後もどんどん進み、現在は耳掃除をする時のゴソゴソする感じも全くななくなりました。右耳が聞こえないために会議などではかなり不便です。国際会議での司会がもっとも困る仕事となりました。

幼少の頃より沢山の病気を患って、50歳過ぎてからかなり調子がよいと思い、こんなに病気から解放された気分

が味わえて幸せすぎるのではないかとやや不安に思っていた矢先に、一昨年はまとめて大きな病気を経験いたしました。これを自分の不幸とは思わないで、神様は、定期的に私に病を経験させ、人間として、医師として、厳しく教育して下さるのだとポジティブに捉えています。

これからもいろいろな不幸が押し寄せるかもしれませんが、その都度、それを天から与えられた試練として、ありがたく迎えていこうと思っています。

多治見北高の卒業生の皆様の中にも、同様の病、あるいはそれ以上の難病を沢山抱えて奮闘しておられる方も珍しくないと思います。お互い、それぞれの状況の中で、最後まで生き甲斐を探して生き抜いていこうではありませんか。

【かのう・のぶやす】多治見北高8回生、亀田総合病院 特命院長補佐、主任外科部長、内視鏡下手術センター長、マハトマ・ガンジー・メモリアル医科大学名誉客員教授

## “LOHAS”？

原田 英明（12回生）

このところ、LOHASという言葉をよく目にします。“LOHAS”（Lifestyles Of Health and Sustainability）。「健康と地球環境」意識の高いライフスタイルのこと。ちなみにSustainabilityとは持続可能性という意味。そういえば、西寺市長の文章にも「持続可能な地域社会づくり」とか書いてありましたね。地球環境に負荷をかけない視点からの経済活動、生活文化の選択が迫られており、健康や環境を重視した新しい価値観とライフスタイルを持つ LOHAS PEOPLE が増えているとのこと。マーケティングでは大きなキーワードになってきています。同じような文脈で“EARTH CONSCIOUS”という言葉もあります。

もちろん地球や環境や健康を意識することは大事なことです。「エコ」とかよりおしゃれな感じだし。石油会社も“EARTH CONSCIOUS”をキャンペーンに使っていますね。環境に大きな影響を与える業界が自戒の意味でやるのは悪いことではないけど、ちょっとどうなのでしょう。BRICsの急成長もあって世界の資源の需要がふくらみ、原油も高騰。どんどん増産するとか・・・地球の温暖化は止まりそうもありません。私も燃費の良くない車を使ってるし。

私と同じ12回生の小池孝範君が声をうわずらせて電話してきたのは、この5月の連休の頃。彼は大学を出てから30年、一貫してアパレル業界で、良い時も悪い時も経験しつつしてきたつわものです。その彼が、「見たことのないすごい生地に出会った」というのです。どうぞいのかの説明はここではしませんが、その後、話がどんどん進展して、来春デビューの新ブランドの立ち上げということにまでなり、不肖この私も小池君に合流しました。

そのブランドはまさにLOHAS PEOPLEがターゲット。別にLOHASという言葉に影響されたわけではなく、私たちが考えていたコンセプトが結果的にLOHASに通じているということに気づき、ちょっと気をつけて周りを見渡してみたら色んなところでLOHASを目にするのです。

それにしても50の峠を越した私たちの新たなチャレンジ。久しぶりに熱意をもって仕事に向かっています。



## 外からの目

堀江 敏幸 (22回生)

大学入学と同時に上京し、そのまま東京に居着くことになって、二十数年が経過しました。数年の外国暮らしを差し引いても、郷里で過ごした時間よりこちらでの生活のほうが長くなりましたから、そのような呼び方が適切かどうかはべつとして、「東京の人間」という体裁を保ちながら冴えない日々を送っています。



仕事のつごうでなかなか帰省もできず、かつての友人たちと頻りに連絡をとりあう努力も怠っている状態なので、現在の多治見市については、ほとんど情報を持ち合わせていません。生活上の実感もないので、たとえば現時点でのこの町についてどう思うか、と意見を求められても、建設的なことはなにもひとつ言えないのが実情です。

また、それ以前の問題として、外に出た人間には、内にとどまっている人々が抱えている不満や欲求について、とやかく言う権利などありませんから、基本的には傍観者の立場を選択せざるをえなくなります。言い出せばきつと、さまざまな現実を無視した理想論、抽象論になってしまうでしょう。

この夏、多治見市制65周年の催しに招かれ、ごく限られた方々の前で話をする機会がありました。周辺都市の市長さんたちがずらりと顔を揃えている特殊な空間で、私になにが言えたでしょうか？ 先に申したとおり、現時点で、私は東京に生活の基盤がある人間です。しかし東京に心身ともに帰属し、その全体をつねに視野に入れ、まぎれもない一都市の構成員としての愛を失わずに暮らしている、というわけではありません。

思春期までを地方で暮らした者として、この都会の暮らしを相対化する視点も持ちあわせています。よいところも、悪いところも均等に見える。それだけのことです。問題は、比較の基準となる時空間が、十代の終わりで凝固していることでしょう。「将来像」を「過去の一時期」と重ね合わせることになり、本来は動きのある空白を飛び越した、理想論になってしまうのは、そのためです。

しかし、こうして生まれ育った町の外に出て、あたらしい生活習慣や価値観を知らなければ、比べることすらできないこともまた事実です。外に出るのは、外を顕揚するためでも、内を否定するためでもありません。内に身を置くだけでは、見えなくなるものもあります。そのような意味で、郷里を愛するには、あまりに深く愛しすぎないことも大切である、といった話をいたしました。ただし、こういう見方が正しいかどうかは、いまもってわかりません。

【ほりえ・としゆき】作家・仏文学者・明治大学(理工学部)教授。1964年生。岐阜県多治見市出身。早大卒。東大大学院博士課程中退。95年、『郊外へ』で作家デビュー。99年にパリ留学体験を書いた『おばらばん』で三島由紀夫賞を、01年『熊の敷石』で芥川賞、03『スタンス・ドット』で川端康成賞(『雪沼とその周辺』所収)、04年に『雪沼とその周辺』で木山捷平文学賞と谷崎潤一郎賞を受賞した。最新作は『河岸日抄』(新潮社)。

## 最近思うこと一人種と食事と健康

牧野 武利

(9回生、サンスター(株)勤務、研究開発担当)

食の欧米化が言われて久しいが、それにつれて肥満者数が増大している。肥満でも始末の悪いのは、内臓肥満と言われるもので、内臓に蓄積し肥大化した脂肪細胞が、数種の健康被害を引き起こす物質を作り出していることが分かってきた。2005年4月8日、日本内科学会はこの内臓肥満の診断基準を、腹周り男性85cm以上、女性90cm以上と定めた。これに、上下血圧、血糖値、中性脂肪、HDL値の内どれか2つが基準値を外れている人は、将来、心筋梗塞、脳梗塞で死亡する可能性が大きいとする「メタボリックシンドローム」が定義された。つまり肥満は汗かきだけではなく、立派な病の状態である。しかも、取り返しのつかない病の・・・。

私は、肥満＝炎症との観点から、肥満と歯周炎あるいは肥満そのものの予防方法を研究しているが、責任者としてまず自ら減量を実践してみた。2003年2月79kgあった体重(MBI27.3)を4ヶ月間で14kg減量し、65kg(BMI22.5)とした。標準体重まであと1kgである。現在もこれを維持している。内臓脂肪は、“普通預金”、皮下脂肪は“定期預金”、前者は容易に“おろせる”と言われます。日本人は平均して45歳を過ぎると基礎代謝量の減少と共に、それ以前と同量の食事の継続は容易に肥満を誘発する。結果、成人病の諸症状が次第に現れることになる。加えて食の欧米化は、同カロリー摂取でも動物性脂肪、動物性タンパク質の摂取量増加をもたらし、中年にはまるで“毒”を日々お金を払って頂いているようなものであろう。

日本人を含むモンゴロイドは白人とは遺伝子背景が異なり、白人と同様な内容の食事摂取はそれだけで肥満をもたらす、さらに眠っている様々な疾病誘発遺伝子をも発現状態にすることが明らかにされつつある。現在、ハーバード大学医学部は我々の食事に対する考え方に興味と共感を示し、もはや食品単独ではなく、食事＝食品の組み合わせ、の果たす役割について一緒に研究をはじめた。

単なる長寿ではなく健康寿命が重視されて久しいが、私も、寝たきり長寿にならないためにはどのような生活スタイルが望ましいのか、即ち精神生活と食生活のあり方について真剣に取り組む必要を感じる年齢になりました。これまで述べた内容に心当たりのある方も少なからずおられると思いますが、ご関心の向きはご一報下さい。幸い我が家の二人の娘もそれぞれ医学と栄養学の道を目指し頑張っています。会社の仕事と併せ個人的にも健康で健やかな生活を切望し、子供たちと具体的な方法を科学的、医学的、栄養学的に考え実践したいと思っている昨今です。



にはよろしくご協力をお願いします。

わが同窓会の重要な課題として財務体制の強化があります。今年は1口3000円の活動協力金をお願いすることにしました。今までは、金額を定めずをお願いしておりましたが、「いくら振り込んだらいいか」など問い合わせが多かったことなどを考慮して、このような事に決定させていただきました。よろしくご協力をお願いします。

この原稿を東京支部に送ろうとしていると、国会が解散となりました。地元の岐阜5区から22回生の阿知波吉信君(土岐市駄知町出身)が民主党から立候補することになり、ご挨拶をいただきました。また、その後更にサプライズなニュースが飛び込んで来ました。いわゆる「小泉の刺客」として、33回生の和仁隆明君が自民党公認候補として立候補するというニュースでありました。この記事が皆様の目にとまる頃には結果が出ている訳ですが、どんな結果になるか楽しみなことです。

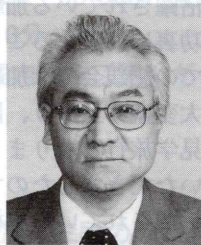
いずれにしても、わが北高出身者が各方面にて大活躍されている様子を拝見するにつけ、いよいよ北高時代の到来を思わせます。皆様も益々のご活躍をお祈り致します。

## 軸の発見

岐阜県立多治見北高等学校 校長 勝安喜

本校には30代から40代にかけて14年間、数学の教員として在職していました。北高スピリットに再び出会えることをうれしく思っています。

数年前、高村光太郎の新境地を開ききっかけとなった彫刻「栄螺(さざえ)」が70年の時を経て発見され展覧されました。私も美術館で見させてもらいました。



「何度彫ってもうまくいかない。最後に気づいたのが“軸”の存在だった。貝に軸があって軸を中心に針が一つ一つ増えていく。それを見なければ栄螺にならない。軸を見つけた日から全ての作品に魂が入りだした。」

彼がこの哲学にたどりついたのは、多くの試行錯誤と生きた栄螺を彫り込みたいという情熱があったからだと思います。彫刻にとどまらず人間も“自分の軸”を見いだした時、人生の歩み、設計ができるのではないのでしょうか。

高校時代に強く、個性的な軸をぜひ培って欲しいと思います。学力をつけることは進路を決定するときの必須条件です。心身共に元気な今、渾身の努力をしてもらいたいと思います。しかし、学力だけではビルのようなもので地震に弱い。富士山のように裾野を拡げながら高みをめざして欲しいと思います。人と語り、本を読むことによって生きるヒントや力を得るはず。豊かなこの財産を得ると、考えにゆとりと柔軟さがつきます。優秀な北高生が人間のにも富士山のように、悠揚迫らぬ人間形成をしてくれるよう応援したいと思います。

あるときはナビゲーター、あるときは共に歩く人、あるときは見つめ支援する人、おとなの英知ある存在が求められている今日、北高に学んで良かった、甲斐があったといわれるよう北高を前進させて参りたいと思います。

以上のような思いをもって着任いたしました。元氣な次世代を育成していくには教職員の誠心努力はもちろん、

同窓会の皆様の支援が欠かせません。同窓会には日頃から熱意を賜り心より感謝いたしております。校舎改築の際は大変な力添えをいただきましたが、今年度ようやく着工の運びとなりました。新校舎完成の折には、校舎周辺の整備も必要となります。その時には同窓会に多大なご支援をお願いしなければならないことも出てくると思います。今後一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

## 囲碁と私

岐阜県立多治見北高等学校 3年生 神戸裕介

私が初めて囲碁と出会ったのは、幼稚園の時だった。もともと囲碁が好きだった父が教えてくれたのだ。といっても、囲碁のルールは幼稚園の子どもがすぐに理解できるほど簡単ではなく、それを習得するのに長い時間がかかった。小学4年生の春頃から本格的に囲碁をやるかと決心し、碁会所に通い、大人に混じっての実戦的対決を通して着実に力をつけた。岐阜県予選を初めて戦ったのは小学6年生の時に、一番驚いたのは私自身だったが、なんと優勝してしまった。それ以来、毎年県優勝を続け、4回の全国大会出場経験を持って多治見北高校に入学した。

入学してすぐに囲碁部に入り、自宅での自主強化という形式ではあったが、学習の合間にネット碁を主にして練習に取り組んだ。まもなく岐阜県予選があると知らされ、想像がつかない高校のレベルの高さを不安に思いながらも、日々の練習に励んだ。当日、とても緊張したが、1年生ということでプレッシャーもなく、挑戦者の気持ちで伸び伸び打てた。その結果、決勝まで進んだが、最後の最後で惜しくも敗れ、準優勝だった。優勝できなかったという意味ではレベルの高さを感じた一方、正直なところ1年生が出場してすぐに準優勝できるという、全体的なレベルの低さを感じない訳にはいかなかった。

しかし、驕れる者は久しからず、の通り、2年生では予選落ちした。悔しかった。情けなかった。1年生の時とは違ってプレッシャーがあったが、主な原因はやはり天狗になっていたことだろう。悔しさをバネに、また練習を重ね、3年生の県予選に挑んだ最後の試合。強豪が揃っていて無理かと思った。しかし、勝利の女神は苦渋を味わっても決してあきらめなかった私に微笑んだのだ。念願の初勝利をつかみ取った。嬉しくてしょうがなかった。

高校3年間で得たのは、技術はもちろん精神的成長が大きかった。囲碁だけにとどめておくには惜しいことを多く学んだ。この経験は、将来の囲碁と共にある人生の原点となるとても重要な要素だ。とても満足している。最後に、今年の夏に開かれる全国大会でベスト16に入って3年間の集大成にできれば最高だ。頑張りたい。

## 北高に入学しての決意

岐阜県立多治見北高等学校 1年生 測上大河

私の将来の目標は医師になることだ。そのために医学部への進学を目指している。医学部への進学はとても狭き門であるため、私は高校生活の3年間、常に勉学に励んでいきたいと考えている。



# 第16回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には、ますます、ご清祥の事とお慶び申し上げます。

いつも、何かと支部運営にお力添えいただき、ありがとうございます。

さて、本年も東京支部総会・懇親会を下記のとおり、開催することになりました。

今年は、昨年の反省、皆様の要望を踏まえて、プログラムに余裕を持たせ、フォーラムは、講演一題に絞り、じっくりと、聞いていただくようにし、さらに、懇親会の食事、飲み物もたっぷり用意致しました。

今年も、来賓として、同窓会本部から、尾関会長、加藤誠治副会長、関西支部から、吉田美喜夫会長、母校より、勝 安喜校長先生、渡辺正司先生、懐かしい恩師数名（未定）をお招きする予定です。

時節柄、ご多用とは存じますが、同窓の方々をお誘いあわせの上、ご参加いただけるよう、ご案内いたします。

多治見北高校同窓会東京支部総会・懇親会実行委員会

(6,16,26回生) 委員長 大地秀生 (6回生)

## 記

日時：2005年11月12日（土） 午後3：00～午後7：45  
午後2：30受付開始

会場：モノリス29

東京都新宿区西新宿2-3-1 モノリスビル29階  
TEL 03-5381-9229

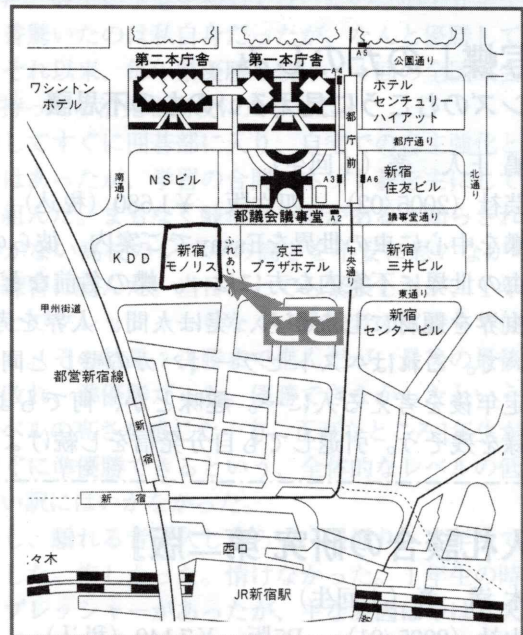
JR新宿駅西口から、徒歩約10分

なお、会場までの道筋は、案内図をご覧ください。

プログラム：

- ・ 受付開始 : 午後2：30
- ・ 総 会 : 午後3：00～3：30 (於；三頭の間)  
議長選出、活動報告、会計報告、新役員選出、その他
- ・ フォーラム：午後3：45～4：45 (於；三頭の間)  
演題 「薬は病を治せるか？(病は気から)」  
講師 長瀬 博 北里大薬学部教授 (6回生)
- ・ 懇親会 : 午後5：00～7：45 (於；雲取・御前・高尾)
- ・ 懇親会費 : 一般 7,000円、学生 2,000円 (新卒者は、無料)
- ・ 年会費 : 一般 3,000円、学生 1,000円

お申し込み：出欠のお返事は、準備の都合もありますので、同封のがきにより、10月23日までをお願いいたします。



## 編集後記

この夏は本当に暑かったですね。台風は来るし、選挙もあったし。選挙と言えば岐阜5区。阿知波君は以前から出馬準備をしているという話を聞いていて、本東京支部でも応援するかどうかなどと話題に上っていました。驚いたのは和仁君の出馬。彼も若手ながら本会に積極的に関わってくれていて、たまに飲み会でも顔を合わせたりします。両君は多北高、早稲田雄弁会の先輩後輩の関係で、今回の選挙で接戦を演じましたが、両君とも残念ながら落選しました。「当選しても落選しても両者からコメントをもらいましょうか」などと本「北辰」編集担当者間で話していたのですが、終わってみれば小泉自民党の圧勝劇にいささか毒気を抜かれ、まあナシでいいかということになりました。両君とも本当にお疲れさまでした。

## 編集委員（連絡先）

〒338-0001 埼玉県さいたま市上落合2-11-7 2107 愛知紘治 (1回生) TEL/FAX 048-855-7840  
〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内67 岩田 実 (7回生) TEL/FAX 0467-25-5329  
〒131-0043 東京都墨田区立花6-8-1-304 原田英明 (12回生) TEL 03-3616-5398 harada@emdigi.com  
<ホームページアドレス>http://members.aol.com/takitatky/ <メールアドレス>takitatky@aol.com